

第1 都立動物園マスタープランの策定に当たって

(1) 目的

都立動物園(本プランでは、恩賜上野動物園、多摩動物公園、葛西臨海水族園及び井の頭自然文化園の4園を合わせて「都立動物園」という。)を取り巻く状況の変化に適切に対応し、より一層都民の期待に応えていくため、これまでの都立動物園における取組の成果や課題を整理し、これから都立動物園が目指す姿とそれを実現していくための取組の方向を示すため、「都立動物園マスタープラン」を策定

(2) 計画期間

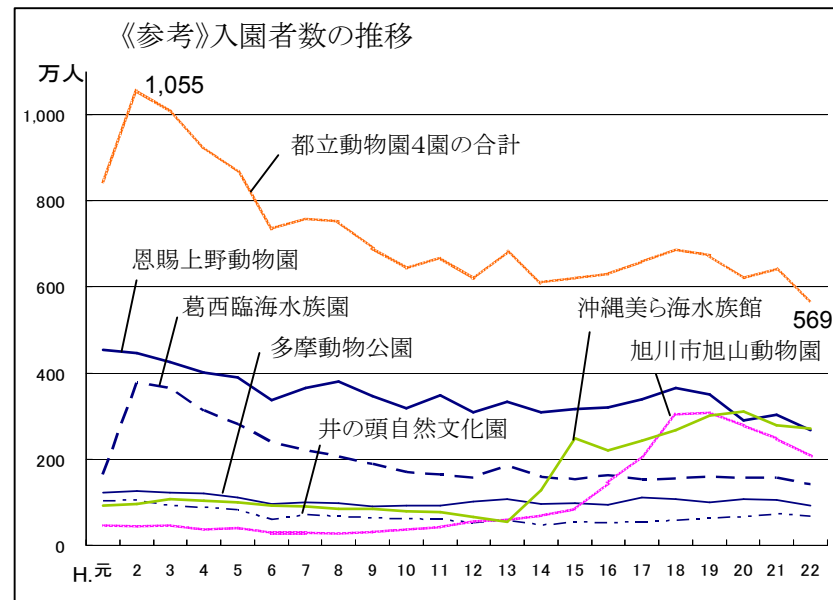
平成23年度から平成32年度までの概ね10年間

第2 都立動物園を取り巻く状況

(1) 入園者数の推移

○都立動物園(4園合計)の入園者数は、少子化の進行や多様なレジャー施設の増加による競合等により、長期的に見れば減少傾向にある。

○都民をはじめ幅広い人たちのニーズを踏まえた魅力ある動物園づくりが必要となっている。



(2) 野生動物保全の取組

○都立動物園は希少野生動物の保護繁殖を通じた「種の保存」とそれを支える「調査研究」において、日本の動物園・水族館の中心的役割を果たしている。

○近年では、開発の進展や乱獲などに加え、地球温暖化による気候変動も一因として野生動物の生息環境が脅かされており、都としても、野生動物や地球環境の保全への取組を強化していく必要がある。

(3) 運営体制の見直し

○都は、平成18年4月、都立動物園の運営に指定管理者制度を導入し、以来、東京動物園協会とともに、種の保存や調査研究機能を維持、発展させながら、利用者サービスの向上とより効率的・効果的な運営を図り、都民に親しまれる都立動物園づくりを進めている。

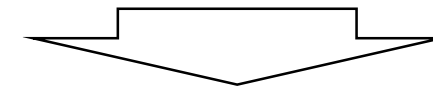
第3 都立動物園の目指す姿と取組の方向

(1) 都立動物園の役割

○都立動物園は世界中から来園者を迎え、多様な野生動物の行動や生態、生息環境を伝え、その保全に取り組むとともに、国内外の動物園・水族館に対する支援も行っている。

○都立動物園は日本を代表する動物園・水族園として世界の野生動物の保全と、このことを通じて地球環境の保全に至る場面にまで、先導的な役割を果たしている。

○都立動物園がこうした役割を引き続き果たしていくためには、都として、都立動物園の存在意義を踏まえた上で、その先を行く動物園を創っていかねばならない。



(2) 都立動物園の目指す姿と取組の方向

都立動物園(4園)を一体として、次のような姿を目指し、その実現に向けて取組を進めていく。

《飼育繁殖技術を世界に発信し、東京、日本そして世界の野生動物の保全に貢献する動物園》

希少な野生動物の保護繁殖(生息域外保全)に積極的に取り組み、
生息地の保全活動(生息域内保全)にも貢献

- ・希少動物の保護繁殖を推進
- ・調査研究機能を充実
- ・高度な飼育繁殖技術を継承・発展

《動物や自然への感性を育み、人々と野生動物との架け橋となる動物園》

多様な野生動物の生態や生息地の環境を伝え、来園者の興味や関心を引き起こし、
野生動物の保全活動の理解者と担い手を育む

- ・生態や生息環境の再現
- ・環境学習の場としての機能強化
- ・都民等との協働事業の充実
- ・都立動物園における環境への配慮

《新たな魅力で観光に寄与し、多くの人が繰り返し訪れ、賑わいを創出する動物園》

魅力あふれるサービスの提供により、都民だけでなく、世界中から多くの来園者を迎え、
東京の観光や地域振興にも貢献

- ・安全・安心、快適な空間の提供
- ・ホスピタリティあふれるサービスの提供
- ・観光の拠点づくり

(3) 各園の目指す姿と取組の方向

各園の立地環境や特色等に応じて、次のような目指す姿と取組の方向をそれぞれ定め、各園の魅力を高めていく。

【恩賜上野動物園】

○目指す姿

様々な動物の魅力的な展示を通して、野生動物保全の重要性を国内外へ発信する動物園

○取組の方向

- ・世界の野生動物に関する情報発信の拠点
- ・立体的な複合展示と生息地を再現したゾーン整備



ホッキョクグマとアザラシの立体的な複合展示

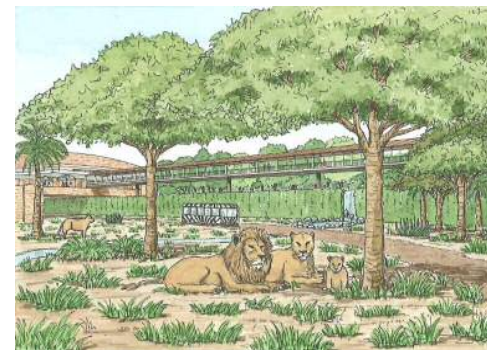
【多摩動物公園】

○目指す姿

多摩丘陵の自然を活用し、ダイナミックな展示と野生動物の繁殖を推進する動物園

○取組の方向

- ・大型野生動物の繁殖基地とバイオテクノロジーを応用した種の保全
- ・広大で豊かな自然を生かした生息環境の再現



ライオンなどの群れの生態を再現する展示

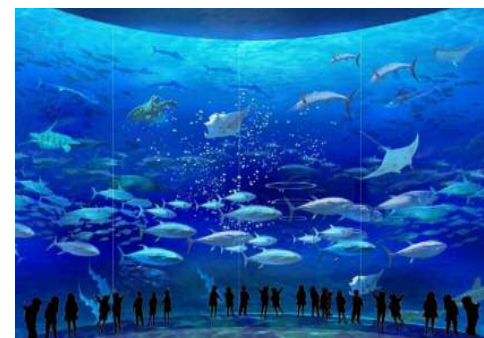
【葛西臨海水族園】

○目指す姿

「生態」から「食育」までを楽しく学べる水族園

○取組の方向

- ・巨大マグロの群泳、大海藻やサンゴ礁など海の生態系をありのままに再現
- ・東京湾(江戸前)をはじめとする各地の食文化や歴史を通して、海の恵みの大切さを伝える



迫力満点の外洋水槽

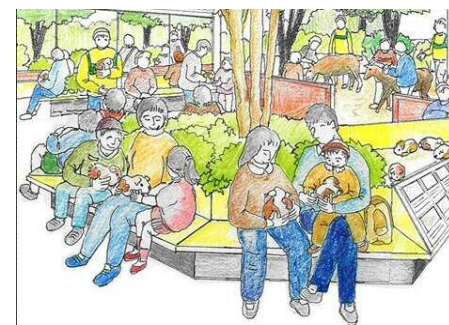
【井の頭自然文化園】

○目指す姿

いつでも気軽に楽しみ、充実したふれあい体験を通じ、野生動物を守る心を育む動物園

○取組の方向

- ・身近な動物とのふれあい体験の提供
- ・生息地と連携した日本産動物の保全と啓発



親子で体験するふれあいと環境教育の充実

(4) 施設整備の方向

○施設整備に当たっては、動物園・水族園としての本来の機能の発揮に加え、安心・安全の確保と環境負荷の低減、将来コストの縮減と利便性の確保などの諸課題に対応していかなければならない。特に、安心・安全の確保については、東日本大震災を踏まえて取組を強化していく。

○その上で都立動物園の魅力向上を図る観点から、各園の取組の方向を踏まえた施設整備を行っていく。

○これまでは主に動物種ごとに施設整備を行ってきたが、今後は各園の状況に応じて、動物舎などとその周辺一体を含んだ空間をゾーンとしてとらえて、施設整備を行っていく。

第4 都立動物園マスタープランの実現に向けて

○今後、都立動物園マスタープランを着実に実施し、これまで以上に魅力ある都立動物園としていくためには、都民の理解と協力が不可欠であり、より効率的・効果的な運営を行っていかなければならない。

○そのため、都は、指定管理者である東京動物園協会とともに、都立動物園事業にかかる経営改善を一層推進していくため、入園者数の増加を図るとともに、費用対効果を見極めながらコスト縮減にも不断に取り組む。